

# 複式第1学年～第6学年 体育科（合同学習）学習指導案

|      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| I組   | 第1学年 | 男子4名 | 女子4名 | 第2学年 | 男子3名 | 女子4名 | 計15名 |      |
| II組  | 第3学年 | 男子4名 | 女子4名 | 第4学年 | 男子4名 | 女子4名 | 計16名 |      |
| III組 | 第5学年 | 男子4名 | 女子4名 | 第6学年 | 男子4名 | 女子4名 | 計16名 | 計47名 |
| 指導者  | 當房省吾 | 藤崎智大 | 中野晶仁 |      |      |      |      |      |

## 1 単元 みんなで動きを高めよう 複式チャレンジマット

### 2 単元について

#### (1) 単元の位置とねらい

第1学年の子どもたちは、入学後の学校生活や学習を通して、友達と一緒に体を動かしたり、友達のよい動きをまねたりして運動するおもしろさから、友達と一緒に運動し体を使って遊ぶ楽しさを味わってきている。また、第2学年の子どもたちは、「いろいろなマットうんどうあそび」の学習を通して、いろいろな姿勢や方向、リズムなどを工夫して、転がる・支えるといった動きをつながりながら基礎的な感覚を身に付ける楽しさを味わってきている。

そこでここでは、友達のよい動きをまねたり、新しい動きの遊びを考えたりしながら、いろいろな姿勢、方向、リズムで動き、倒立・接転・逆さ・体の締めなどの動きの感覚をつかんでいく。また、動きをつなげて遊ぶ楽しさを味わわせようとするものである。

第3学年の子どもたちは、「いろいろな動きをつづけたマットうんどうあそび」で、友達のよい動きをまねたり、新しい動きでの遊びを考えたりしながら、いろいろな姿勢、方向、リズムで動いたり、その動きをつなげて遊んだりする楽しさを味わってきている。また、第4学年の子どもたちは、「前転・後転を中心としたマット運動」で、動きの比較からよい動き方に気付き、順次接触や回転加速といった基礎的な感覚を生かして勢いよく回転する動きを身に付け、前転・後転や技につながる動きができるようになる楽しさを味わってきている。

そこでここでは、順次にマットに接する動きから勢いよく回転する技能やタイミングよく足を開き起き上がる技能を身に付けていく。また、動きの比較や友達との教え合いからコツを発見し、技や動きを段階的に身に付けたり、よりリズムよく動く楽しさを味わわせようとするものである。

第5学年の子どもたちは、「前転・開脚前転などを入れた連続技」で、発見したコツを相互に伝え合ったり、体の部位の動かし方に気を付けたりしながら、開脚前転や開脚後転、技につながる動きができるようになる楽しさを味わってきている。また、第6学年の子どもたちは、「側方倒立回転を中心とした連続技」で、課題解決の場を工夫したり、動きのつながりを考えたりしながら、側方倒立回転やつながりの動きを加えた連続技に挑戦する楽しさを味わってきている。

そこでここでは、腰の位置を高く保ちながら側方に回転する技能を身に付けていく。また、コツを共有したり、課題を解決するための方法を話し合ったりしながら、技や動きを調子よく雄大にできるおもしろさや友達と協力しながら技を組み合わせていく楽しさを味わわせようとするものである。

#### (2) 指導の基本的な立場

マット運動（遊び）のおもしろさは、マット上で姿勢や動く方向などを変化させ、日常生活では体験できない倒立や回転など多様な感覚を味わいながら技や動きを達成し、リズムよく動く心地よさを味わうところにある。さらに、姿勢や距離、高さなどの条件を変えてできたときの達成感や爽快感を味わうところにある。

また、異年齢集団でマット運動（遊び）の学習をすることで、それぞれの発達段階の多様な動きや技を段階的、発展的に学習することや姿勢や方向などを変化させた多様な動きや技を組み合わせることで表現することができる。さらに、運動経験の豊富な上学年が助言や補助をして動きのコツを伝えたり、下級生が上級生の姿からあこがれや目標をもって挑戦したり、上級生が下級生に手本を見せることができるように練習したりするなど意欲をもって取り組むことができる。「複式チャレンジマット」は、1年生から6年生までの集団の中で、動きの系統を意識し、系統を往来しながら課題を解決したり、異年齢同士で教え合ったりしながら、それぞれの段階の動きや技を達成していく学習である。そして、よりよく達成するために、異年齢のグループで動きの課題に応じた練習の場や練習の方法を工夫したり、運動経験などをもとに助言や補助、示範をし合ったり、動きや技を組み合わせたりすることで、自分の役割をもちながら集団の学びに参加し、教えたり教えられたりすることを繰り返しながら一人一人ができる・わかる楽しさを味わう学習でもある。そうすることで、自分のもっている力や立場を考え、自己の役割をもって教え合い、全員で協力しながら動きを高め合う楽しさを味わうことができる。

この「複式チャレンジマット」のおもしろさを味わわせるために、異年齢集団の中で動きを見合い、改善していく活動や異年齢グループでチームの中で課題をもっている友達の練習の工夫を考える活動を位置付けたり、練習してきた動きや技などを組み合わせた技（遊び）に挑戦させたりすることで、異年齢集団に

よるかかわりを促進し、自己の役割をもって集団の学びに参加し、教え - 教わる関係を築きながら活発に学び合い、かかわり合うよさを実感できるようにする。

「つかむ・見通す」段階では、オリエンテーションを開き、単元全体を見通した活動や単元のゴールでの目指す姿をイメージできるようにする。その際、異年齢のグループを組み、グループ全員が話し合いながらそれぞれの課題を解決させていく方法を考え、できる動きを増やし、これまでの自己の記録を更新していく学習であることを確認する。次時では、それぞれの発達段階において達成させたい動きや技に挑戦させ、自分の課題から学習のめあてをもたせる。「挑戦する・工夫する」段階では、学習過程の前半で、動きや課題となる技につながる感覚をつかむために、支持や接転などの感覚づくりの運動を組み入れた準備運動を行う。また、それぞれの発達段階ごとに分かれ、課題となる動きや技の達成を目指し練習に取り組みさせる。学習過程の中盤では、自分の役割を考えながら活動させるために、練習してきた動きや技の達成度を相互評価したり、異年齢グループの友達の課題を共有し、課題を解決するために助言したりする活動を取り入れる。また、学習過程の終末には、動きの高まりや集団でのかかわり合いを評価し次時につなげるために、自己評価をする場を設ける。さらに、単元の後半では、異年齢集団の中で、評価を受けた自分の動きや技に再挑戦させたり、発展的な動きや技に挑戦させたりする。「生かす」段階では、自分の動きの高まりや集団で学習してきた成果を実感させるために、追究してきた動き・技やこれまで学習してきた動き・技を組み入れた技を発表する活動を位置付ける。

このような学習を通して、お互いの課題を解決するために、自分の立場や力に気付いてできることを考えたり（計画性の向上）、課題解決のために互いに協力したり（協調性の向上）自分なりの役割をもったりしながら（責任感の高揚）学ぶことで、動きや技ができるようになる喜びを感じ、器械運動やその他の運動とのかかわりだけでなく、友達など他者や集団とのかかわりを一層深めることができる（自己肯定感の醸成）。

(3) 子どもの実態（調査人数は47名、調査結果は主な項のみ表掲）

① マット運動遊び、マット運動に対する興味・関心 ※複数回答

|     | 低学年  |                                                                                                                                                       | 中学年  |                                                                                                                                                                                                                              | 高学年  |                                                                                                                                                                                      |
|-----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 好 き | 15 名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体を動かすことが好き(9名)</li> <li>○ 体を動かすと気持ちがいい(2名)</li> <li>○ 友達と仲良く運動できる(2名)</li> <li>○ 体操を習っているから好き(2名)</li> </ul> | 14 名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 練習してできるようになったときうれしい(3名)</li> <li>○ 技を教えたり教えられたりできる(3名)</li> <li>○ みんなと協力できる(3名)</li> <li>○ いろいろな動きや技に挑戦できる(2名)</li> <li>○ いろいろな動きや技を覚えることができる(2名)</li> <li>○ できる技がある(1名)</li> </ul> | 12 名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ できるようになったときの達成感がある(4名)</li> <li>○ 体全体を動かすのが好き(4名)</li> <li>○ できる技がある(2名)</li> <li>○ コツを教え合うことができる(1名)</li> <li>○ 努力すれば成長が分かる(1名)</li> </ul> |
| 嫌 い | 0 名  |                                                                                                                                                       | 2 名  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ できない動きがある(1名)</li> <li>○ 目が回る(1名)</li> </ul>                                                                                                                                        | 4 名  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体が思い通りに動かない、苦手(3名)</li> <li>○ 他の運動と比べ、体を動かす時間が短い(1名)</li> </ul>                                                                             |

② 学習のめあて（1年生から6年生のマット運動でどんなことをやってみたいか、どういうことに気を付けて学習をしたいか）※複数回答

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 低学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ できるまで一生懸命練習したい(7名)</li> <li>○ 動きをたくさんできるようになりたい(5名)</li> <li>○ できない動きでもあきらめず、ヒントをたくさんもらいたい(2名)</li> <li>○ ケガをしないようにしたい(1名)</li> </ul>                                                                                                                        |
| 中学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全員で協力し一人一人の動きを高める(6名)</li> <li>○ 苦手な動きや技ができるようになる(6名)</li> <li>○ 自分の目標を達成する(2名)</li> <li>○ 動きのコツを見つける(1名)</li> <li>○ 1から6年生全員で動きをつくる(1名)</li> <li>○ 教え合う(1名)</li> <li>○ いろいろな動きを身に付ける(1名)</li> </ul>                                                         |
| 高学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全員で協力し、課題を克服する(7名)</li> <li>○ 下学年ができるように助言などをしてサポートする(3名)</li> <li>○ 下学年の手本となれるように技を達成する(2名)</li> <li>○ 多くの技を身に付ける(1名)</li> <li>○ 自分の課題を見つける(1名)</li> <li>○ 自分の課題の技をできるようになる(1名)</li> <li>○ 1から6年生全員で動きをつなげていく(1名)</li> <li>○ 高学年として下学年をリードする(1名)</li> </ul> |

③ 友達と共に学ぶとき気をつけたいことについて ※複数回答

|     |                                                                                                                                                                                                                 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 低学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ がんばって最後まで練習をする(9名)</li> <li>○ クラスの友達に聞く(3名)</li> <li>○ 毎日練習する(2名)</li> <li>○ 家でも練習する(2名)</li> <li>○ 高学年のお相手さんに聞く(2名)</li> <li>○ できない理由を考える(1名)</li> </ul>              |
| 中学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ コツを見つけたり知っているコツを教えたりする(6名)</li> <li>○ アドバイスをする(5名)</li> <li>○ 実際に動きを見たり見せたりする(4名)</li> <li>○ 補助をする(4名)</li> <li>○ 一緒にできない原因やコツを考える(2名)</li> <li>○ 練習に誘う(1名)</li> </ul> |
| 高学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アドバイスをしたり、もらったアドバイスを生かしたりする(5名)</li> <li>○ どこがよいか、悪いかなど、どう動いたらいいかをアドバイスをする(3名)</li> </ul>                                                                              |

|  |                                                                                                                                    |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | ○ 技に関係のある動きの練習をする(3名) ○ お手本となる動きを見合う(2名) ○ お互いに補助し合う(2名) ○ 動きに関係のある場で練習する(1名) ○ 自分ができない動きのポイントをつかむ(1名) ○ 動きを部分的に見る(1名) ○ 道具を使う(1名) |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

④ 動きや技のコツについて

|     |                                                                                                                                                                                |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 低学年 | ○ うさぎ跳び…手をまっすぐ伸ばす、手を少し開き、足を前にもってくる ○ アンテナ…背中ですさえる、足をまっすぐのばす、おしりのバランスをとる ○ ブリッジ…手と足のバランスをとる ○ かえるの足打ち…逆立ちみたいにする、足を上にあげる ○ ゆりかご…思いっきりゆれる、勢いをつける                                  |
| 中学年 | ○ 前転…足をかかえるようにする、頭を丸める、回っているときおへそを見る、分からない(2名)<br>○ 後転…勢いをつける、手をつく、足を後ろにもってくる、分からない(2名)<br>○ 開脚前転…勢いをつける、すばやく足を開く、分からない(2名)<br>○ 開脚後転…勢いをつける、足を開くタイミングを気を付ける、手を使って立つ、分からない(2名) |
| 高学年 | ○ 側方倒立回転…勢いをつける、手を遠くにつく、手を順序よくつく、足をぴんと伸ばす ○ 分からない(11名)                                                                                                                         |

⑤ 技能について

| 学年    | 低 学 年 |       |         |      |         | 中 学 年 |    |      |      | 高 学 年  |
|-------|-------|-------|---------|------|---------|-------|----|------|------|--------|
| 動きや技  | 手押し車  | うさぎ跳び | 大きなゆりかご | ブリッジ | かえるの足打ち | 前転    | 後転 | 開脚前転 | 開脚後転 | 側方倒立回転 |
| よくできる | 13名   | 3名    | 9名      | 15名  | 3名      | 12名   | 3名 | 7名   | 7名   | 2名     |
| できる   | 1名    | 8名    | 6名      | 0名   | 9名      | 4名    | 9名 | 7名   | 3名   | 7名     |
| できない  | 1名    | 4名    | 1名      | 0名   | 3名      | 0名    | 4名 | 2名   | 6名   | 7名     |

本校複式学級の子どもたちは、①については、「体全体を動かすことが好き。」「一生懸命練習した後の達成感がある。」などといった理由からマット運動遊びやマット運動を好きな子どもが多い。反面、学年が上がるにつれて、「できない動きがある。」「思い通りに体を動かすことができない。」という理由で嫌いと答えている子どももいる。動きや技のコツや自分の課題を克服するための手立てが分からないことが原因にあるのではないかと考える。

②の学習のめあてについては、低学年の子どもたちは「できるまで一生懸命練習したい。」「たくさんできるようになりたい。」というめあてを立てている子どもが多い。中学年、高学年の子どもたちは、「全員で協力して課題を克服したい。」というめあてを立てている子どもが多い。どの学年の子どもも動きや技の達成を目指したいという思いが強いと考える。また、学年が上がるにつれて、1人だけではなく、全員が協力しながら動きや技の改善を目指したいという意識が高いと考える。さらに、「お相手さんに聞く。」「一緒にできない原因やコツを考える。」「高学年として下学年をリードする。」といった自分の力や立場を踏まえてめあてを立てている子どももいる。集団の中で自分がどんな役割をもって学習していくか考える意識が芽生え始めていると考える。

③の友達と共に学ぶとき気をつけたいことについては、低学年の子どもたちは最後まで繰り返し練習をすることが大切だと考えている子どもが多い。一方、特に上学年の子どもは、助言や示範、補助など友達との学び合いが大切だと考えている子どもが多い反面、課題とする動きに関係のある場での練習や技につながる動きの練習が必要だと考えている子どもは少ない。自分の課題が分かった後に、その課題に応じた練習の工夫が不十分だったと考えられる。

④の動きのコツについては、体の部位の動きに着目したり、運動を構造的に見たりしてコツを見つけている子どもが少なく、動きや技はできるがコツは分からないと答える子どももいる。動きを分析する際の視点を意識化させる発問や活動が不十分だったと考える。

⑤の技能については、低学年では倒立感覚や勢いをつけて体を起き上げる回転加速の感覚が十分に身に付いていない。中学年では、前転、開脚前転はおおむねできている。しかし、特に後転、開脚後転を達成できていない子どもが多い。さらに、高学年では、約半分の子どもが側方倒立回転を達成できていない。多くの子どもたちが、順次接触や回転加速の感覚、倒立感覚といった技に必要な基礎感覚が十分に身に付いていないため、主運動である技を達成できていないことが考えられる。また、実態調査の観察の中で、「自分の体がどう動いているか分からないから、どの部分の動きができていないか分からない。」「どんな順番で動けばいいか分からない。」という声も聞かれた。このことは、運動の構造や技に関連する一連の動きを十分理解できていなかったり、十分な運動経験を積んでいなかったりするために、自分の動きと目指す動きとを比較し、改善点を見いだすことができていない状態であることが考えられる。

#### (4) 指導上の留意点

|           |                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| つかむ・見通す   | ア 「みんなで動きを高めていく」という目的を共有し、単元のゴールの姿のイメージをもって学習できるようにするために（計画）、オリエンテーションを開き、「グループ全員の力を合わせ、全員の動きを高めていく」学習にしていくながら必要となることを話し合わせる。                                                                                      |
|           | イ 動きを分析する際の視点を明確にもてるようにするために（つながり）、絵図や動画を使って主運動や主運動につながる動きを確かめるようにする。                                                                                                                                              |
|           | ウ 運動の構造に着目しながらコツを見つけることができるようにするために（つながり）、「課題となる動きはどの部分の動きか。」「どんな動きが身に付けば解決できそうか。」を主運動の構造に照らし合わせながら考えさせる発問を行う。                                                                                                     |
| 挑戦する・工夫する | エ 異年齢グループでよりよく練習の仕方を工夫できるようにするために（計画）、主運動につながる動きを練習する場や動きや技の系統を整理した学習カード、練習に使える道具（ゴム紐、ざぶとん、ICT機器など）を用意する。                                                                                                          |
|           | オ 友達と協力し助け合いながら学習することが動きや技の向上につながることに気付かせるために（協力）、示範や助言といった援助活動の必要性を考える活動を取り入れる。                                                                                                                                   |
| 生かす       | カ グループ全員が協力し、自分の役割を考えながら活動できるようにするために（参加）、異年齢集団で相互評価したり自分たちの課題の解決策を考えたりする活動を取り入れる。その際、それぞれの立場や力、達成状況を考慮しながら活動できるようにするために、異年齢のグループ内で「相互評価を受けて、どんな練習や活動が必要か。」「なぜそのような活動を選択するのか。」などと問いかけながら、目的を達成できる活動を選択できるように考えさせる。 |
|           | キ これまでのかかわりを振り返り、成長を実感させるために、追究してきた動きや技、組み合わせ技などの発表会を位置付ける。その際、動きや技の出来栄だけでなく、「グループでどこまで動きや技を増やすことができたか。」「そのために協力し工夫できたか。」などを相互評価させる。                                                                               |

### 3 目 標

| 低学年                                                                                                                                                                                                                              | 中学年                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 高学年                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 「お兄さんお姉さんのようになりたい。」「動きを見つけてあそびたい。」などの思いや願いをもって、友達や上級生と学び合いながら安全に遊ぼうとすることができる。<br>(2) 転がりや動物歩きなどの動きをつくったり、友達のよい動きを見付けてまねたり上級生の助言などを聞いたりすることができる。<br>(3) 様々な姿勢・方向・リズムでの動きができ、みんなで楽しく調子よく遊ぶことができる。また、友達と一緒に簡単な動きを組み入れて遊ぶことができる。 | (1) 「もっと新しい技を目指して練習したい。」「後転・開脚後転などができるようになりたい。」などの願いをもって、安全に気をつけて友達や上級生などと学び合い、出来栄を確かめながら進んで運動に挑戦することができる。<br>(2) 動きの違いを体の部位の動きに着目し比べてコツを発見したり、課題となる動きについてグループの友達や学年の違う友達と教え合ったりしながら自分や友達の動きをよりよくすることができる。<br>(3) 後転や開脚後転などの技をリズムよく続けて行うことができる。また、友達とともに後転、開脚後転や学習してきた技を組み合わせた技ができる。 | (1) 「下級生の手本になりたい。」「側方倒立回転を調子よく回れるようになりたい。」という願いをもち、自分やグループのできばえを確かめたり、自分の役割を考えたりしながら繰り返し挑戦することができる。<br>(2) 目指す動きと自分の動きとを比較したり、下級生や友達、自分自身の課題を踏まえ、その課題を克服するための方法を工夫したりしながら側方倒立回転や下級生の動きの改善策を考えることができる。<br>(3) 側方倒立回転を調子よくできる。また、友達とともに側方倒立回転や学習してきた技を組み合わせた技ができる。 |

### 4 指導計画

| 時 間                             | 1                                                                                       | 2                                                                                                                    | 3 ~ 8                                                                                                                           | 9                                                                                                                                           |
|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 道 筋                             | つかむ・見通す                                                                                 | 挑 戦 す る                                                                                                              | ・ 工 夫 す る                                                                                                                       | 練 り 上 げ る                                                                                                                                   |
| 課<br>題<br>の<br>追<br>究<br>過<br>程 | <b>オリエンテーション</b><br>・学習の見通しをもつ<br>・異年齢集団で考えた練習の工夫を評価<br>・集団で技や動きの出来栄を評価<br>・個人や集団の成長を評価 | <b>学習課題の確認</b><br>・学年の発達段階で習得してほしい技や学習目標の確認<br>◎感覚づくり<br>◎コツの発見<br>◎技の達成<br><b>実態把握</b><br>《診断的な振り返り》<br><b>目標設定</b> | <b>共通課題の解決</b><br>○チャレンジⅠ<br>・自分の課題となる技や動きの練習<br>○チェックタイム(異年齢)<br>・練習してきた動きや技の相互評価《形成的な振り返り》<br>○チャレンジⅡ(異年齢)<br>・課題の確認と練習の仕方の工夫 | <b>共通課題の解決</b><br>○チャレンジⅠ<br>・前回の学習をうけて目標の再設定<br>・発展技への挑戦<br>○チェックタイム(異年齢)<br>・練習してきた動きや技の相互評価《形成的な振り返り》<br>○チャレンジⅡ(異年齢)<br>・課題の確認と練習の仕方の工夫 |
|                                 |                                                                                         |                                                                                                                      |                                                                                                                                 | <b>学習成果の発表会</b> 《総括的な振り返り》                                                                                                                  |

| 低学年 3～7                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○ 支持感覚、接転感覚、倒立感覚、体の締め感覚につながる運動遊び<br>(例：【支持、締め】の運動遊び、【締め、倒立】の運動遊び、【接転】の運動遊び)<br>○ ペアでのまねっこ遊び、新しい遊びの発見 |
| 中学年 3～7                                                                                              |
| ○ 前転、後転、開脚前転、開脚後転を中心とした技の達成を目指す<br>○ 発展技、2人組等での共同技の練習への挑戦                                            |
| 高学年 3～7                                                                                              |
| ○ 側方倒立回転を中心とした技の達成を目指す<br>○ 発展技、2人組等での共同技の練習への挑戦                                                     |

5 本 時 (6/9)

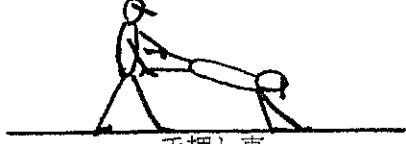
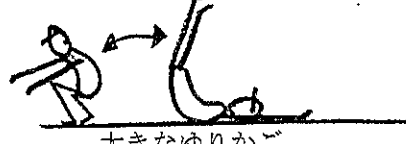
(1) 目 標

| 低 学 年                                                                                                                                           | 中 学 年                                                                                                                                                                                         | 高 学 年                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「お兄さんやお姉さんのようになりたい。」「もっとできる動きをふやしていきたい。」などの願いをもち、友達との動きの見合いからよい動き方に気付いてまねたり、上学年や友達の助言などをよく聞いたりすることを通して、手をしっかりついて体を支持する、逆位になり腰を高い位置にするなどの動きができる。 | 「これまでの課題を改善したい。」「上学年や同学年の友達の意見を生かしてできるようになりたい。」などの願いをもち、友達と自分の動きの比較からコツを発見したり、上学年や友達の助言や補助などを生かしたりすること、自分の立場を踏まえた行動を考えることができる。それらを通して、後転や開脚後転につながる順次にマットに体を接触し勢いをつけて回転する動きやタイミングよく足を開く動きができる。 | 「チームをまとめていきたい。」「自分や友達の課題を改善していきたい。」などの願いをもち、これまでの動きの課題に焦点化した練習をしたり、課題を基にした練習を工夫したり、集団の中での自分の役割を意識した行動を実行したりすることができる。それらを通して、側方倒立回転につながる腰の位置を高く保ったまま側方に回転する動きができる。 |

(2) 本時の展開に当たって

これまでの学習の課題をもとに全員が協力しながら動きの改善を目指して活動できるようにするために（目標整合）、「自分の課題は何か、それをどう改善していくか」を明確にしためあてを立てさせる。また、同学年や異学年の友達との教え合いの中で動きを高めていくことができるようにするために（協力）、異年齢のチームの中で解決策を考え、助言や補助をしたり、できない動きの一つ前段階の練習の場を選択したりするなど練習の仕方を工夫させる。さらに、異年齢のグループで相互評価や練習する場面では、それぞれの役割を考えた行動ができるようにするために（つながり、参加）、発達段階に応じながら「友達や自分の動きの状況はどうか」「どんな練習や活動が必要か」などを問いかけるようにする。

(3) 実 際

| 過程        | 時間 | 主な学習活動(1, 2年)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 主な学習活動(3, 4年)                            | 主な学習活動(5, 6年)                           | 教師の具体的な働きかけ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| つかむ・見通す   | 10 | <p>1 感覚づくりの運動を含んだ準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体をほぐし、体力やマット運動につながる感覚を培う附属体操を行う。</li> <li>○ 異年齢集団で、上学年が下学年に正しい動き方を教えながら感覚づくりの運動を行う。</li> </ul>  <p>手押し車</p>  <p>大きなゆりかご</p> <p>2 本時のめあてについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>これまでの課題をもとに、コツを見つけたり教え合ったりしながら、できる動きや技をふやそう。</p> </div> |                                          |                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全に運動させるために、場に危険物がないか全員に確認させる。</li> <li>○ 運動する際、負担のかかる手足首や肩、首などをほぐす運動を行う。</li> <li>○ 主運動につながる動きの感覚を身に付けさせるために、倒立感覚や接転感覚を培う運動を行わせる。その際、運動の仕方を理解できている上学年が下学年に正しい動き方を伝えながら運動するように指示する。</li> <li>○ 学習の見通しをもち、めあてを明確にもたせるために(計画)、これまでの学習の課題や単元のゴールまでの時数を確認めて、今日はどんな学習にしたいかを問う。</li> </ul> |
| 挑戦する・工夫する | 5  | <p>3 全体でめあてを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ どんなことを、どのようにがんばるかがはっきりとわかるめあてを立てる。</li> </ul> <p>4 中学年以降の技につながる運動遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ (例) かえるの進化遊び</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>4 自分の課題をもとに後転、開脚後転の練習をする。(チャレンジⅠ)</p> | <p>4 自分の課題をもとに側方倒立回転の練習をする。(チャレンジⅠ)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明確なめあてをもたせて練習させるために(目標整合)、「どんなことを、どのようにする」という具体的なめあてを立てさせるようにする。</li> <li>○ 各学年ごとに分かれて、それぞれの追究する動きや技の練習や運動遊びを行わせる。</li> </ul>                                                                                                                                                        |

|           |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 挑戦する・工夫する | 10 | <div>・ 小さなかえるの足打ち</div> <div>・ かえるの足打ち(足前後)</div> <div>・ 壁ひつつきかえる(壁登り逆立ち)</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <div>・ 課題を重点化した練習</div> <div>例：後転で、うまく回転ができない</div> <div>勢いをつけて回れていないね。</div> <div>おしりを着く位置が手前すぎるね。</div> <div>勢いをつけるために、おしりを遠くに着けて回る練習をしよう。</div> <div>おしりの着く位置はどうか。</div> <div>地面をもっと蹴りだすといいよ。</div> | <div>・ 課題を重点化した練習</div> <div>例：腰の位置が高く上がらない</div> <div>改善するためにどんな練習がいいかな。</div> <div>一つ前の川跳びや倒立の動きの練習がいいね。</div> <div>腰の位置を高くして回るために、川跳びや倒立の動きの練習をしよう。</div> <div>手の着き方と目線はどうか。</div> <div>倒立の補助をしてあげよう。</div> | <div>【主に低学年への働きかけ】</div> <div>○ 正しい動き方を確かめながら運動させるために、教師の示範を行う。</div> <div>○ 段階的に動きを高めながら遊べるようにするために、スモールステップ化した運動遊びに挑戦させる。</div> <div>【主に中、高学年への働きかけ】</div> <div>○ 見通しをもって練習を工夫させるために、「自分の今の課題は体の部位のどんな動きがうまくいかないか」を問う。</div> <div>○ 課題を克服する練習を計画的に行わせるために、自分の今の動きの課題をもとに、系統を踏まえた練習の場を選択させる。</div> <div>○ 友達との学び合いの中でコツを発見させるために、友達同士で動きを見合い、改善した点や今後修正していく点を伝え合わせる。</div> |
|           | 17 | <div>5 チェックタイムを行う。</div> <div>○ 異年齢でのグループごとに集まり、練習した動きや技の相互評価を行う。</div> <div>・ 相互評価してもらいたい動きや技の一つに絞って見てもらう。</div> <div>・ 体の部位や動きのつながりなどを視点に、目指す動きや技と比較しながら評価する。</div> <div>6 チェックタイムをもとに、練習の工夫を話し合い、練習を行う。(チャレンジⅡ)</div> <div>○ チェックタイムで得た課題を基に、異年齢でのグループで練習の工夫を話し合う。</div> <div>・ 動きの改善点を積極的に聞く。</div> <div>・ 友達の課題の改善策や練習の工夫を考える。</div> <div>○ グループで話し合ったことを踏まえて、工夫した練習を行う。</div> <div>・ 話し合った結果を基にした練習をする。</div> |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                | <div>○ 自分の達成度を形成的に評価させるために、異年齢のグループごとに集まり、練習してきた動きや技を相互評価させる。その際、これまでの学習経験や自分の力をもとに有効な評価となるように(目標整合)、高学年を中心に評価し、動きの改善点を考えさせる。</div> <div>○ 役割をもち目的を明確にさせて取り組ませるために(つながり、参加)、自分やグループの状況を踏まえ、どんな活動が必要か高学年を中心に話し合わせる。</div> <div>○ 下級生や上級生との学び合いの中でコツを発見させるために(協力)、役割をもとに助言、補助、見合いなどの行動を工夫を促す発問を行う。</div>                                                                      |
| 生かす       | 3  | <div>7 整理運動をする。</div> <div>8 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。</div> <div>お兄さん(お姉さん)のアドバイスからできるようになったぞ。次はもっといろいろな動きにチャレンジしたいな。(強固)</div> <div>今日の学習では、●●さんのアドバイスがすごくよかった。次は自分の動きだけでなく、友達の動きもよくしてあげたいな。(付加)</div> <div>チームのみんなが目標をもって真剣に取り組めるように、もっと責任をもち、自分に何ができるか考えていきたいな。自分の動きも改善していきたい。(修正)</div>                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                | <div>○ 同学年や異学年の友達と一緒に学び合ったよさを実感させるために(つながり、参加、目標整合)、「自分が成長できたか」「今日の成長の要因は何か」を振り返らせる。</div> <div>○ 次時への活動の意欲をもたせるために、友達と教え合ったり、練習を工夫したりした過程を称賛し価値付ける。</div>                                                                                                                                                                                                                  |